高砂青松 Rotary Club
The Rotary Club of Takasago Seisho, Japan
2023年5月10日 発行
No.31
Rotary 高砂青松ロータリークラブ
IMAGINE ROTARY
イマジン　ロータリー
2022－23年度国際ロータリーのテーマ
IMAGINE ROTARY

会員卓話

令和５年４月19日（水）

愛煙家のひとりごと

廣瀬　明正副委員長

昭和20年（1945）生まれの私は、子供のころに大人たちが酒やたばこを飲みながら、賑やかに話している姿を見て育ちました。そんな私がたばこを吸うようになったのは、大学生の時（たぶん20歳）からです。それゆえ、喜寿になり人生を振り返りますと、愛煙家として58年の長い歳月を元気に過ごしてきたことになります。

昭和40～50年代の日本は高度経済成長期で、昭和歌謡の黄金時代ともいわれ、世の中は活気に満ちあふれていました。一般の家庭はもとより職場、レストラン、ホテル内のテーブルには必ず灰皿が置かれ、人々がたばこを吸いながら歓談し、カラオケで歌をうたい、飲食をする光景をよく見かけたものです。

また、新幹線や特急・急行列車、観光バス、タクシーの座席にも備えつけの灰皿があり、乗客は自由に喫煙ができました。そのころ私は高砂JC（青年会議所）に所属しておりましたが、酒を飲み、たばこを吸いながらメンバーと宴会、旅行をするなど、楽しい思い出も多く、まさに昭和の良き時代でありました。

ところが、昭和50年代の半ばになりますと、「たばこを吸うと肺がんになる」と報道され、やがて禁煙運動が盛んになります。日本医師会でも、たばこを吸う人は肺がんにかかるリスクが、男性は約も4.8倍、女性は約3.9倍増加すると発表して禁煙を勧めてきました。

その結果、次第に禁煙する人が増え、たばこの吸える場所も限定されるようになってきました。平成時代になると喫煙場所はさらに減少し、受動喫煙なども問題視されたため、喫煙者は白い目で見られ、多数の人が利用する施設の屋内・敷地内では禁煙というところまで進展しました。新幹線でも禁煙車両が徐々に増加し、令和２年からは喫煙ルーム以外は全席禁煙となりました。

しかし、これまで肺がんの最大の原因として、たばこの影響を指摘する論調には少なからず疑問を持っていました。なぜなら、私がたばこを吸い始めたころは日本人男性の喫煙率は80%（約6000万人）を超えていましたが、現在は40%を切っているのにもかかわらず、肺がん死亡者数は約１万５千人から年々増加して約７万５千人になっているからです。たばこが原因とするならば、喫煙率が半分以下になったのに、なぜ死亡者数が５倍に増えているのでしょうか。

さらに、たばこによる肺がんのリスクを示すデータは、病院が肺がんの患者にたばこを吸いますか、吸いませんかを確認して作成したものであって、病院に行かない元気な喫煙者約3000万人は対象外であります。喫煙と病気に関するデータはたくさんありますが、それらは因果関係を示したものではないのです。

そこで、たばこに関する本をいくつか探して読みました。その中で特に啓発されたのは、武田邦彦氏著『早死にしたくなければ、タバコはやめないほうがいい』（竹書房 平成26年）と喫煙文化研究会編『たばこはそんなに悪いのか』（ワック 平成28年）で、いろいろと参考になることが書かれていました。

さて、皆さんは「共生社会」という言葉をご存じだと思います。さまざまな人々が、すべて分け隔てなく暮らしていくことのできる社会をつくることは大切です。障害のある人のみならず喫煙者も差

別、忌避、疎外されてはなりません。ただ、世の中にはたばこを吸わない人、その煙・臭いが嫌いな人もいますので、分煙対策を徹底し、喫煙所などの設置を充実させることが肝要だと思います。

最近、『高砂市政だより』の第一号（昭和29年12月1日）を見ましたが、その一面の記事に「煙草消費税とは 月額百万圓に近い税金が市財政に入る」という見出しで、“たばこ売上金の百十五分の十が販売した市町村に税金として還元されるので、高砂市でも月額百万円の収入を見込んでおり、その税収を学校の建設、道路の修繕費に充てることができ、市民の福利を増進する結果となりますから、たばこは市外で買わず、市内の店でお求め下さい。”と掲載されています。
現在の貨幣価値にすると月千六百万円以上の税収ということになります。

その後たばこ税にも変遷がありますが、近年国・地方の税収の合計は概ね2兆円程度で推移しています。私が吸っている一箱（20本入り）580円のたばこの税額を計算しますと、国税152.44円、地方税152.44円、消費税52.73円で合計357.61円になります。私は1日一箱を吸いますから、1年で130,527円を納税しているのです。市の関係者に聞きますと、高砂市ではたばこの税収が年5億6千万円ほどあるといいます。

国・地方が「共生社会」の実現を目指すならば、せめて喫煙者が納めた税金の1～2割でも喫煙室の設置、喫煙場所の整備に充当してもらいたいと思います。

高砂市の公共施設に出かけても喫煙室がないため、近くのコンビニに設置された灰皿の前でたばこを吸っていると、歩行者がチラッとこちらを見て、「ゴホン、ゴホン」と咳をして通り過ぎるという嫌な思いを何度も経験しました。

そこで、是非たばこの税収は喫煙者の福利にも使ってほしいと願います。そして、喫煙者と非喫煙者が共に安心して暮らせる社会になることを期待して已みません。私自身これからも毎日酒（2合）とたばこ（20本）愛飲しながら、余生を楽しく元気に過ごしたいと思っております。

ニコニコ報告 Donation

庄司　武
4月最終例会となりました。
本日は廣瀬さんの楽しい卓話をしていただきます。
よろしくお願いします。

村上　則宏・大村　裕史・柿木　國夫
佐野　栄作・川崎　一生・田中　伸明
大橋　卓司
今日は、廣瀬さんの卓話楽しみにしています。

坂口　嘉久
早退します。申し訳ございません。

櫻井　宣孝・濵田　喜重・入江　啓太
都倉　隆宏・原　久美・青柳　淳
松下　和雄
創業記念日の御祝ありがとうございました。

志方　正昭・都倉　隆宏・菱田　好美
森本　匡裕
結婚記念日の御祝ありがとうございました。

廣瀬　明正・三枝　丈次・濵田　喜重
誕生日お祝い有難うございました。
また、本日卓話させていただきます。（廣瀬　明正）

田中　浩行
誕生、結婚、創業記念、トリプルのお祝をいただきありがとうございます。

幹事報告 Secretary

幹事報告　第 27 回（通算 2055 回）

1. 地区より
   ①「米山学友世界－再開 in 関東－」のご案内が届いております。
   ②「米山記念奨学寄付金」についてのお願いが届いております。

2. 国際ロータリー日本事務局より
   環境月間リソースが届いております。

3. ロータリー 2620 地区より
   「RI 会長杯ロータリーワールドゴルフ大会」中止のお知らせが届いております。

4. 公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より
   ハイライトよねやま vol.277 が届いております。

5. 高砂観月能の会より
   高砂観月能の会協賛事業お能「高砂」のお知らせが届いております。

6. 高砂市スポーツ少年団事務局より
   「令和 5 年度高砂市スポーツ少年団春季軟式野球大会」の協賛のお礼が届いております。

7. 高砂市国際交流協会より
   「国際交流通信」vol.146 が届いております。

8. 社会福祉法人日本ライトハウスより
   「FOWARD2023,3,74 号」が届いております。

9. 公益財団法人 PHD 協会より
   2022 年度会報 152 号が届いております。

10. 高砂ロータリークラブ、加古川ロータリークラブ、加古川平成ロータリークラブより
    例会変更のお知らせが届いております。

皆様、回覧致しますのでご確認下さい。
4 月 26 日及び 5 月 3 日は休会となっております。
次回 5 月 10 日の例会は【青少年奉仕委員会担当】高砂市保護司会会長中尾進様卓話となりますので多数の参加をお待ちしております。
以上幹事報告でした。

例会記録　2023.4.19（水）　通算 2061 回

ソ　ン　グ　「我等の生業」「四つのテスト」
出 席 報 告　４月　５日　会員数３９名　欠席者　６名　出席率　77.78％（修正による）
（この内出席免除者　１５名）
４月１９日　会員数３９名　欠席者　５名　実出席者数　２５名
（この内出席免除者　１５名）　出席率　83.33％

委員会報告 or その他連絡事項 et cetera

委嘱状

◇村上会員・濵田会員

社会奉仕委員会

◇大橋会員

会長の時間 President

4月はロータリーの特別月間、「母子の健康月間」

2014年10月RI理事会は、重点分野である「母子の健康月間」である4月を、5歳未満の幼児の死亡率と罹患率の削減、妊婦の死亡率と罹患率の削減、より多くの母子に対する基本的な医療サービスの提供、保健従事者を対象とした研修、保健ケアの提供、母子の健康に関連した仕事に従事することを目指す専門職業人のための奨学金の支援を強調する月間としました。

母子の健康-Rotary International

毎年、5歳未満で命を落とす子どもは、世界で推定590万人。いまだに毎日約1万7,000人の5歳未満児が命を失っています。
その原因は栄養失調、適切な医療や衛生設備の欠如など、どれも予防が可能なものばかりです。
予防可能な原因で母と子どもが命を落とすことなどあってはならないと、私たちロータリー会員は考えます。
すべての母子が質の高い医療を受けられるよう、そして、出産で命を落とす母親がいなくなり、子どもがすくすくと成長できるように、私たちは支援活動を行っています。

ロータリーはこんな活動をしています。

教育、予防接種、出産キット、移動クリニックなど、ありとあらゆる方法で母子の健康を推進しています。
また、女性を対象に、HIV母子感染の予防、母乳による授乳、病気の予防に関する教育も行っています。

この重点分野の目的と目標

ロータリー財団は、ロータリアンが以下の形で、母子の健康を改善するのを支援します。

- ① 5歳未満の幼児の死亡率と罹患率の削減。
- ② 妊婦の死亡率と罹患率の削減。
- ③ より多くの母子に対する基本的な医療サービスの提供、地域社会の医療／保健関係のリーダーと医療提供者を対象とした母子の健康に関する研修。
- ④ 母子の健康に関連した仕事で活躍していくことを目指す専門職業人のための奨学金の支援 。

子どもの死亡率に関する推計値

ユニセフは、死亡率に関する推計値（新生児死亡率、乳児死亡率、5歳未満児死亡率など）を『世界子供白書』に毎年掲載しています。出生1000人当りの5歳未満児死亡率が100人以上の12カ国は全てアフリカで、50~100人（39カ国）はアフリカ（25カ国）、中東、インド、パキスタン、東南アジアです。
一方、OECD加盟国はほとんどが5人以下で、日本は3人です（2013年）。
国連の「国連持続可能な開発サミット」で採択された（2015年）「持続可能な開発目標」で、全ての国の5歳未満児の死亡率を出生1000人当り25人以下にすることが示されました。

日本の「母子健康手帳」が世界標準に。

2016年11月、東京、国連大学で、世界各国で母子の健康を守るツール「母子手帳」に携わる人や関心をもつ人々が集う国際会議が開催されました。
1942年に「妊産婦手帳」として始まった母子手帳は、妊娠期から乳幼児期までの健康記録を1冊にまとめ、出産や子育てに必要な情報を得る手段としても活用されてきました。1947年に「母子手帳」、1966年に「母子健康手帳」として内容の充実が図られています。
「母子健康手帳」の使用により乳幼児死亡率が低下したことが実証され、現在、日本の「母子健康手帳」をモデルにして、母や子の健康状態を記録する手帳は世界80カ国・地域で作られています。WHOは2017年の完成をめざして、「Maternal and Child Health Handbook（母子健康手帳）」の作成指針を検討しています。

◇ プログラム予定 ◇

5月 17日（水）	新旧合同委員会（引継例会）
5月 24日（水）	クラブ協議会（新委員会協議会）
5月 31日（水）	各委員会事業報告
6月 7日（水）	各委員会事業報告（先週の続き）

●●● 近隣クラブインフォメーションは、高砂青松ロータリークラブのホームページにてご確認ください。 ●●●

会長 庄司武　幹事 藤井宏行　クラブ会報・広報・記録委員長 森本匡裕
例会日時 毎週水曜日 12：30　例会場 高砂商工会議所会議室（2F）
事務局 高砂商工会議所内 〒676-0064 高砂市高砂町北本町1104 電話（079）443-0500